

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 28 年 11 月 24 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3473500308		
法人名	北広島町社会福祉協議会		
事業所名	グループホーム松籟荘		
所在地	広島県北広島町川小田10075番地45 (電話) 0826-35-0740		
自己評価作成日	平成28年10月20日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3473500308-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 FOOT&WORK
所在地	広島市安佐北区口田南4-46-9
訪問調査日	平成28年11月24日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

毎日を自分らしく過ごしていただく為に、利用者の思いを引き出し、常に利用者の立場に立ったケアができるよう毎月の職員研修などで職員の育成を行っている。また、地域との連携や互助のきっかけを作るために地域へ出かけたり、地域住民を招き交流を行い、地域に開かれた施設になるようしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホーム松籟荘は「居心地のよい、笑顔あふれるホームをめざす」という理念を掲げ、男女12人の利用者が生活している。近隣には高校・交番・商店・JA・役所・消防署・文化ホールがあり、地域交流がとても盛んで地域に根差している。利用者個々にその人らしく過ごす事が出来る様に、個々の認知症状・性格・趣向の理解、生活歴・職歴等の把握を確実に行って、アセスメントにおいて方向性を決め、コミュニケーションの取り方に配慮している。また、利用者同士の連帯感や協働意識も必要と認識しながら支援にあたり、少人数ではあるが集団での生活の中で適切な人間関係が築けるよう、コミュニケーションへの配慮やフォローも行っている。利用者の中での役割作りや関係作りを重視し、できるだけ利用者主体で行う事が出来るよう職員による誘いかけ・促し・見守りを行っている。

グループホーム松籟荘

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	・社会福祉協議会の理念である地域福祉・相互扶助を職員全員で共有し、実践につながるよう取り組んでいる。 ・理念や毎月の標語を事業所内に貼り出す他に、全職員がカードサイズのものを持ち歩いている。	「居心地のよい、笑顔あふれるホームをめざす」という理念を掲げ、職員は地域密着型のサービスの意義を理解し、利用者のペースに合わせた介護の実践に繋げている。月1回の研修で理念について話し合い理念を共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している。	・ほとんど毎日の買い物へ出かけ、地域の方とあいさつを交わしたり会話をする。 ・地域の行事には、職員とともに出かけている。 ・夏には施設主催の納涼会を開催し、地域の方の協力をいただき、地域、利用者、家族、職員の交流の場となっている。	日々、地域の商店を買い物で利用していて、散歩に出かけた時には地域の方と挨拶を交わし交流している。施設の納涼会には家族・地域の方も多く参加し交流している。小学校の運動会に参加し1・2年生と玉入れ競争を行って交流している。高校の文化祭を見に行ったり、高校生が施設を訪問しゲーム等で交流している。地域の授産所と交流があり、作られたパンを週1回購入し食している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	・地域包括センター主催の認知症サポーターとして小学校、中学校へ参加。 ・施設の祭(納涼会)でパンフレットを配布し、施設を開放、認知症啓発を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回開催し、運営状況、提供サービス、行事などの報告を行っている。地域、行政の情報などの収集。今後のサービス向上のための意見交換をしている。	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催しており、利用者家族、地元住民、老人会会長、民生委員、駐在所署員、芸北分校職員、町職員、地域包括支援センター職員・区長が出席し、利用者の状況・事業所の運営等について報告し、時期に応じた取組みを伝え、参加者からの質疑応答を通して意見・要望・提案を受け会議で検討しサービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	行政担当者と、運営推進会議、地域ケア会議、実施指導などを通じて実績、サービスの取組みなど情報交換している。制度など不明なことは相談している。	運営推進会議への地域包括支援センター職員の参加を通して、事業所の状況や取組みを伝え、助言や提案を受け連携している。事業所での課題や問題があれば、町の担当窓口の介護保険課に適宜相談を行い、解決するようにしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	・日中施錠はせず、自由に出入りできるようにしている。センサーを設置し、利用者の行動を確認できるようにしている。 ・身体拘束の研修に参加し、職員の意識を高め身体拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしない方針で取り組んでいる。全体会議の中で身体的な拘束だけでなく、言葉や精神的な拘束についても説明を行い、理解を深めるようにしている。安全性を強く希望されベッド柵の使用を希望される家族にも、拘束をしない方針でケアを行っている旨を繰り返し説明し、職員・家族共に理解を深め安全を確保しつつ自由な暮らしを続ける事が出来る支援に取り組んでいる。家族の希望により承諾書を交わし、転倒防止の為夜間のみベッド柵を使用する方がいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員会議や研修で虐待について学び、利用者が安心して生活できるよう心がけている。		

グループホーム松籟荘

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	・権利擁護事業や成年後見制度について、外部研修で学ぶとともに、研修資料などは他の職員が閲覧できるようにしている。 ・権利擁護が必要な利用者には社協内で支援できる体制がある。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入退所時に面接や調査を行い、説明、納得の上、同意を得ている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	・面会の家族から意見や要望を受ける。遠方の家族には手紙や電話で意見を伺っている。 ・家族会は年2回開催し事業計画、報告を行い意見を伺う機会を設け、意見を運営に反映するようにしている。	家族の来訪の際には近況を報告している。また、利用者の日々の様子を郵送して報告し、家族から意見や要望が出やすいように配慮している。年2回家族会を開催し、家族から出された意見や要望等は職員間で共有し、迅速に対応すると共に、日々の意見は「業務日誌」や「ケア記録」にも記録として残り運営に反映している。	利用者本人の情報を多く集め施設でお家で暮らしていると同時に、安心して過ごして頂けるようにさらに検討されることを期待します。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員面談や毎月の職員会議、研修時に意見や提案を検討し反映している。	職員会議では職員が意見・提案を出し合い、管理者が把握する場にもなっている。管理者が各ユニットの勤務に入り、共に勤務する中で話し易い関係作りと、職員の意見・提案を聞く機会を設け、反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職場環境、現状を把握する他に、職員会議等で出た意見や要望を検討し、就業規則に反映できるようにしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	人的資源開発計画により、義務的研修、努力義務的研修を明確にし、職員の資質向上に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	外部研修に参加し交流。電話で情報交換を行っている		

グループホーム松籟荘

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用開始前の事前面接を通して、本人・家族と話し合いの場を設けることで不安を取り除けるようにしている。本人と信頼関係が築けるよう本人の思いを聴き、受け止めるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	相談からサービス利用開始後も疑問点があれば気軽に問い合わせてもらっている。又職員からも声をかけ意見などを聞けるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用者の情報を多面的に分析し、ウオツ・ニーズについて職員間で共有し、支援するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	“対象者”として見る事無く、利用者の感情を受け止め、共感し理解し合えるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族が施設の応援団となるよう、家族に施設の情報を発信したり、施設行事への参加を呼びかけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	・入居前の関係をできるだけ維持できよう、誰もが面会にきやすい雰囲気作りを心がけている。 ・外出や外泊の支援をしている。	家族の協力を得て、知人等とも疎遠にならないよう、ホームを訪問して頂けるよう支援している。又、近所からの入居者は、知り合いが良く来所している。友人、知人、家族の方が来訪し易い環境作りを行ない、職員は笑顔で迎えるよう努めている。又、家族と一緒に自宅に帰り外泊する方もいる。希望の店舗などに出かけ、馴染みの関係が継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者が同じ作業をしたり、会話が促進されるよう、職員の関与を心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後、退所後の受け入れ先などの相談や調整を行っている。		

グループホーム松籟荘

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・日頃の生活において、本人の希望や意向を把握する為に、しっかりと関わりを持ち、本人への理解を深めることを心がけている。 ・本人に合った生活環境の提供ができるよう検討している。	入居時に把握した思いや意向は、「サービス計画書」の意向欄やアセスメント欄に記載して共有を図っている。入居後は、日々のコミュニケーションの中で、特に寄り添い介護・入浴・夜勤帯など利用者が個別に話せる機会を大切に、思いや意向の傾聴に努めている。思いや意向の把握が困難な場合は、家族からの情報を参考にしながら、また、観察の重要性を職員が理解し、表情や反応の変化に留意して把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	担当ケアマネや家族などからの情報収集に努め、個人の生活歴の把握を行うようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個別の観察を記録し、ミーティング・引継ぎに活用している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	職員の意見や気づきなどを日々記録し、家族の意向を取り入れて介護計画を作成している。	ケアプランは利用者・家族の要望を取り入れ、利用者の心身状況に適した対応、意向を、毎日の状態把握・観察・支援により汲み取り、個々に見合った目標を検討して作成している。その際には利用者の入居以前の生活歴や生活環境などを把握し、継続性を持って支援していくようにしている。6ヶ月毎のモニタリング・サービス担当者会議の記録、毎日の利用者への支援記録、個別対応の充実により、現状に即した介護計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日、個々の生活状況を記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	既存のサービスに捉われることなく、本人の状態の変化などにも合わせ、個々のニーズに対応する柔軟なサービス提供を心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の行事に参加したり、地域の方との交流を持つことで、利用者が生き生きと生活していただけるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	主治医がおり、いつでも相談ができるよう連携を取っている。月1回の往診。必要に応じた受診。専門医への紹介もしている。年2回歯科検診を行っている。	かかりつけ医は近隣の診療所で、利用者は月1回の定期的な往診を受けている。入居時に意向を確認し、利用者・家族の希望に沿った受診支援を行っている。家族には、変化がある場合は電話などで迅速に連絡し、変化がない場合は面会時やお便りで伝達している。年2回の歯科医の検診があり、治療が必要な利用者には職員が連れて行っている。	

グループホーム松籟荘

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	利用者の状態を把握し、必要に応じ、看護師に報告している。服薬や健康管理でも連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と情報交換や相談の連絡を取り合っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	本人、家族の思いを聞き、主治医のもと、本人、家族、職員とで話し合いを行っている。事業所でできることを伝え、支援している。	「重度化・終末期に向けた指針」を作成し、契約時に説明を行い意向を確認し同意を得ている。重度化を迎えた段階で、主治医から家族に説明を行い、再度意向確認を行っている。終末期には「看取り介護計画」を作成し、状態に変化があれば家族と話し合いを重ね、主治医・看護師と共に、家族の意向に沿った支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的な救急講習を受け、技術向上に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	地域と防災協定を結んでいる。年2回の避難訓練を実施している。そのうち1回は夜間想定。地域の方の参加協力を得て実施している。	年に2回、昼夜想定で、1回は消防署立ち合いの下、利用者も参加して避難訓練を行っている。夜間想定での訓練では、夜勤者2名で実践的な訓練を実施し、他の職員は見学を通して手順の周知を図っている。近隣住民とは顔馴染みの関係にあるので協力を依頼しており、今年度の訓練に参加している。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	倫理規定を職員一人ひとりが常に意識し、プライバシーに配慮した対応を行うよう努めている	年間研修計画の中に、「接遇・マナー」「認知症ケア」を盛り込み、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応について学ぶ機会を設けている。気になる対応があれば、管理者がその都度注意を促している。個人ファイル等は、鍵のかかるロッカーに保管し、個人情報の適切な管理をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	コミュニケーションをとり、思いを汲み取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者一人ひとりのペースに合わせた暮らしが送れるよう、その人らしい生活を支援している。		

グループホーム松籟荘

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その人の好みのおしゃれを提供できるよう心がけ支援している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者のリクエストや季節の物を取り入れている。食事の準備や食事、後片付けを利用者と職員が一緒に行っている	季節感や行事食を取り入れながら、利用者が希望する献立を立て、買い物を利用者と一緒に行っている。日常的にも、下準備から後片付けまでの一連の作業の中に、利用者の好みや力量に応じて、参加できる場面づくりを行っている。利用者と一緒に「手作りおやつ」を楽しむ機会も設けている。職員も一緒に食卓を囲み、家庭的な雰囲気ですべてが楽しめるように配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量のチェックを行い、栄養面を確保している。食事形態を個人にあったように提供できるよう工夫している。水分摂取を定期的に提供している。個々の習慣に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアの声かけを行い、自分で口腔ケアが困難な利用者には、職員が介助している。自菌がある利用者には、訪問歯科からの口腔ケアなどを受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々の排泄パターンを把握し、早めの声かけ誘導を行い、トイレで排泄ができるよう支援している。使用するリハビリパンツ、尿とりパットなど一人ひとりに合わせている。	排泄チェック表で個別の排泄状況や排泄パターンを把握し、必要に応じて声かけ・誘導を行い、トイレでの排泄ができるように支援している。状況に変化があれば、現状に即した排泄用品や介助方法をカンファレンスで検討している。同性介助を基本とし、勤務の都合上等困難な場合は見守り等支援方法を工夫し、羞恥心に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分摂取を心がけ、体操や身体を使ったレクリエーションなどを行っている。排便チェックを行い、下剤の調整も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	夏場は毎日、冬場は2日に1回としているが、利用者のその日の体調や気分に応じて行っている。	入浴は夏場は毎日入浴し、冬場は2日に1回行っている。利用者の希望やタイミングに配慮し、シャワー浴・足浴・清拭対応も行い入浴を楽しんで頂けるよう支援しています。意思表示が困難な方に対しても、状態を観察しながら入浴を支援している。又、入りたがらない方には、アプローチの仕方を変え、入浴を促している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	利用者の生活パターンを把握し、散歩や体操などを通じて、心地よい疲労感を得て、安眠できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方された薬の用法用量などの理解に努め服薬の確認を行っている。症状の変化を常に気を配っている。		

グループホーム松籟荘

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者の個性や特技を尊重し、無理のない範囲で楽しみながら活動してもらっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	・施設前の畑に野菜作り、プランターに花を植えるなど一緒に取り組めるよう配慮している。 ・毎月のお楽しみ会には利用者の希望を取り入れながら、バスを貸しきり、ドライブや1日旅行へ出かけている。 お楽しみ会行事には、地域、家族に参加を呼びかけている	施設の近くにあるJAに買い物に出かけたり文化ホールでの神楽の舞を鑑賞しに出かけている。又、利用者の希望を聞きながら、ドライブでバスを貸し切り、広島飛行場を見学に行ったり、加茂川荘・オークガーデンに食事に出掛けている。花見や紅葉狩り・聖湖にドライブに出かけている。施設前の畑では、玉ねぎ・大根・ネギ・はぶそう茶作りを行い、水やりや草抜き等行い収穫を楽しんでいる。外出時には家族にも声掛けをし参加できる人は一緒に出掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	・家族からの要望で金銭を預かっている。買い物時には、利用者に渡し、自由に買い物してもらっている。必要な生活用品はその時に購入してもらっている。 ・収支報告を毎月行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人や家族の希望があれば支援を行っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	毎朝、無理のないよう自室の掃除と共同場所の掃除を職員と一緒にしている。季節に応じた製作品を飾るなど、利用者の安らげる場所作りを心がけている。	施設は自然に囲まれた緑豊かな環境にあり、利用者が集まる食堂兼リビングは採光が良く明るい。利用者は、日中ここで過ごされている。施設内には利用者の季節を感じる作品、活動や行事時の写真を飾っている。居室や食堂サロンには、冷暖房・床暖房・加湿器を完備し、家庭的な雰囲気の良い快適な空間作りをしている。施設内は毎日と随時に清掃を行い、非常に清潔で快適な状態となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食事や談話、テレビを楽しむスペースなどを設け、利用者同士で思い思いに過ごせる場の提供に努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人や家族と相談しながら、在宅時に使用されていた馴染みのものを持ち込んでいただき、自宅とかわらず本人が安心して過ごせるよう居心地の良い部屋となるようにしている。	居室は利用者が自宅から持ってきた愛着のある家具、寝具、こたつ・手鏡・家族写真・時計・仏壇・テレビ等日常の使いたれた物や馴染みの物等を持ち込まれて、本人が居心地よく過ごされるように工夫している。利用者の個性が感じられ、生活感のある場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者のできる方法を見つけ、安全かつ自立した生活が送れるようにしている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の3分の2くらいの
			③利用者の3分の1くらいの
			④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の3分の2くらいと
			③家族の3分の1くらいと
			④ほとんどできていない

グループホーム松籟荘

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の3分の2くらいが
			③職員の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の3分の2くらいが
			③家族等の3分の1くらいが
			④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム松籟荘

作成日 平成 28 年 11月 25 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	本人がより良く暮らす為の課題とケアのあり方を考える	・状況を正確に把握できる ・問題状況を理解できる	・利用者を観察し、職員会議、研修の中で共有する。 ・問題とは「現実」と「目指すべきこと」へのギャップであることを常に意識する。(職員側ではなく、利用者にとっての問題) ・利用者の立場になり目標、計画を立てる。	1年
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。